

人工知能戦略本部
(第5回) 議事概要

日 時：令和8年7月10日（金）8:35～8:45

場 所：総理大臣官邸4階大会議室

出席者：別紙のとおり。

議 題：

- ・A I法に基づく基本計画（案）について
- ・バーティカルA I領域別戦略中間とりまとめについて

議事要旨：

- 小野田人工知能戦略担当大臣から議題について説明が行われた。
- 審議の結果、A I法に基づく基本計画（案）について、原案のとおりに決定された。
- 出席者からの発言は以下のとおり。
 - ・林総務大臣から、「我が国の生産性の向上や労働力不足の解消に向けて、A Iの社会実装が今後ますます重要となる一方、外国製の生成A I等への過度な依存や、サイバー攻撃等のリスクに的確に対応する必要があると考えております。本日の人工知能基本計画案の中には、A Iを「使う」・「創る」・「信頼性を高める」総務省の施策として、例えば、①地方の伸び代を成長に転換するための「地域A X」、「自治体A X」の推進、②エージェント型A IやバーティカルA I等を活用した情報通信分野のA I開発・社会実装等の促進、③A I学習用の質の高い日本語データの整備・提供、A Iモデルの技術的評価能力の確立、④「Project YATA-Shield」に基づく情報通信を含む重要インフラのサイバーセキュリティ強化等が盛り込まれております。また、消防分野においては、本年3月末に策定した「消防技術戦略ビジョン」も踏まえ、指令業務等の高度化やロボットの活用といった消防A Xの推進に取り組んで参ります。総務省としては、こうした取組を着実に進め、基本計画が目指す「世界で最もA Iの開発・活用がしやすい国」の実現に貢献してまいります。」といった発言があった。

・茂木外務大臣から、「外務省として、今般のＡＩ基本計画で示された外交面の取組を引き続き全力で進めてまいります。その観点から、進化した「自由で開かれたインド太平洋」の下、同志国やグローバル・サウス諸国等と共に、ＡＩ分野における能力と競争力を相互に強化すべく、ＡＩ協力を推進しております。５月の高市総理のベトナム訪問を踏まえ、「日ＡＳＥＡＮ・ＡＩ共創イニシアティブ」をさらに具体化させて、多様な言語・文化を反映したＡＩモデルの開発に向けた協力を進めています。また、インドやフランス等との対話を通じて、ＡＩ協力の更なる具体化に取り組んでいます。さらに、フロンティアＡＩの悪用によって一層深刻化・複雑化するサイバーセキュリティ等へのリスクに対応すべく、各国と連携しながら、ＡＩの安全性に関する協力を強化してまいります。引き続き、外務省として、あらゆる外交機会や在外公館を活用して、ＡＩサミットの日本開催に向けて取り組むとともに、各国・地域の実情に応じた「信頼できるＡＩ」エコシステムの共創を目指していきます。」といった発言があった。

・松本文部科学大臣から、「今般改定される「人工知能基本計画」を踏まえ、「危機管理投資」、「成長投資」の中核として、これまで以上にＡＩ戦略を推進していくことが重要であると認識しております。文部科学省としては、「AI for Scienceの推進に向けた基本的な戦略方針」を踏まえ、基礎研究を含め新たな挑戦や国際連携等を通じた先導的研究、それらを支える研究インフラ構築等の取組を推進してまいります。また、初等中等教育段階における生成ＡＩの利活用に関するガイドラインを早期に改訂するなど、学校現場における安全・安心で主体的なＡＩの利活用を実現するとともに、情報活用能力の抜本的向上にも取り組んでまいります。さらに、高等教育段階での教育プログラムの構築支援や大学等におけるリ・スキリングの強化を通じて、ＡＸを進める中核となるＡＩ実装人材の育成を推進していきます。改定された本計画を踏まえ、引き続き「世界で最もＡＩを開発・活用しやすい国」の実現に貢献してまいります。」といった発言があった。

・上野厚生労働大臣から、「社会課題が山積する我が国において、進化するＡＩ技術を積極的に活用し、社会実装を進めていくことが重要です。厚生労働省関係では、本日のバーティカルＡＩ領域別戦略中間とりまとめでも示されているとおり、重点領域である創薬領域や医療・介護・福祉領域におけるＡＩ実装を進め、創薬プロセスの高度化・迅速

化を通じたA I 創薬力の確保や安心・安全で質の高い持続可能な医療・介護・福祉サービスを安定的・効率的に提供できる環境の構築につなげてまいります。また、A I の活用等を担う人材の育成・確保も重要な課題であり、関係省庁と連携しながら必要な対応を進めてまいります。」といった発言があった。

- ・鈴木農林水産大臣から、「我が国の農林水産業・食品産業は、深刻な人手不足や高齢化、気候変動への対応といった待ったなしの課題に直面しており、これらを乗り越えるためには、A I の戦略的活用が不可欠です。このため、農林水産省では、生成A I 等による農業者等の判断の支援や、A I を活用したスマート林業機械の開発、水産業におけるA I による操業支援技術の開発、食品産業におけるA I を活用した省力化支援等に取り組んでおります。また、先月には「スマート畜産技術のイノベーション・普及に関する検討会」を立ち上げ、畜産におけるA I 活用の可能性について議論しているところです。今後、人工知能基本計画及びバーティカルA I 領域別戦略を踏まえ、データ駆動型で生産性が高い産業構造への転換に向けた、農林水産業・食品産業におけるA I の開発・現場実装を加速化してまいります。」といった発言があった。

- ・赤澤経済産業大臣から、「「ビッグデータ×A I」の時代の今、各分野でA I トランスフォーメーションを進めるには、現場データが鍵。高齢者のヘルスケア、災害対応、製造現場、福島第一原子力発電所の廃炉現場で蓄積されたデータなど、現場データを活用したフィジカルA I やバーティカルA I の開発・実装が日本の勝ち筋です。フィジカルA I 、特にA I ロボットについては、「A I ロボティクス戦略」を6月に改定し、2040年のロボット導入台数目標として、約1,000万台を掲げました。関係省庁と連携しながら、主要部品の研究開発・量産投資支援、ユーザー企業によるA I ロボット導入支援、研究開発・社会実装・人材育成のハブとなるA I ロボティクスの中核拠点の創設に、大胆かつスピード感をもって取り組んでまいります。加えて、フィジカルA I 開発のベースとなる国産マルチモーダル基盤モデルについて、今夏より開発を開始し、世界に先駆けて、フィジカルA I やA I ロボットのデータ基盤を構築し、成長させてまいります。バーティカルA I については、A I 開発支援プログラム「GENIAC」を通じて、世界的にも競争力を持ち得る創薬や材料開発、コンテンツなど、様々な分野のA I 開発を促進し、日本における生成A I の社会実装を徹底的に進めてまいります。また、地方発A Xは、

中堅・中小企業にとって、人手不足を乗り越え、大企業を追い抜くチャンスとなり得ます。大学や高専を含む地域の関係者を巻き込みながら、地方発ＡＸを確実に実現してまいります。」といった発言があった。

- ・石原環境大臣から、「持続可能な成長の観点からも、ＡＩの利活用を推進することが必要です。環境データをAI-Readyな形で整備することにより、循環経済、炭素中立、自然再興等におけるＡＩの開発・実証・導入・社会実装を促進してまいります。また、ＡＩの活用拡大による電力需要の増加が見込まれるデータセンターについては、その脱炭素化に向けて、高効率な冷却技術の開発支援や、再エネ等を活用した設備の導入支援などの取組を進めているところです。今後とも、環境データの利活用促進とＡＩインフラの脱炭素化を進め、持続可能なＡＩの利活用を後押ししてまいります。」といった発言があった。

- ・松本デジタル大臣から、「人口減を乗り越え、強い経済を作るため、社会全体でＡＸ／ＤＸを加速する必要があります。デジタル庁では、行政のＡＩの利用拡大に向け、①ガバメントＡＩ「源内」でのエージェント型ＡＩの導入や②国産ＡＩモデルの積極活用、③効率的かつ安全にＡＩを利用するための政府内ガバナンス強化、④ＡＩエージェントを適切に利用するための政府のルール作り等に取り組んでまいります。また、社会全体のＡＸを推進するため、デジタル行財政改革会議を「ＡＩ・デジタル改革推進会議」に改組し、人工知能戦略本部、規制改革推進会議等と一丸となり、公共・準公共・民間分野のＡＸ／ＤＸ推進や、ＡＩの開発・利活用に係る法制度やガイドライン等に関する能動的かつ抜本的な見直しの実施等により、省庁横断でＡＸ／ＤＸを実行してまいります。さらに、高性能ＡＩの悪用に備え、我が国のサイバーレジリエンスの向上のため、「Project YATA-Shield」に基づき、ＮＣＯを中心に、複数のＡＩモデルを活用し、政府機関の重要システムの脆弱性チェックを進めるとともに、重要インフラ事業者やＡＩ開発事業者との連携を強化してまいります。」といった発言があった。

- ・あかま国家公安委員会委員長から、「ＡＩ技術悪用事案等へ厳正に対処するとともに、警察においても、同技術を積極的に利活用することがこれまで以上に重要と認識しております。この度決定されたバーティカルＡＩ戦略の「警察」領域では、ＡＩを積極的に

活用し、匿名・流動型犯罪グループ対策の強化、違法・有害情報対策とローン・オフエンダー対策の強化、110番通報・相談対応の高度化、サイバー対処能力の強化などに取り組むこととしております。今後、本戦略に基づき、内閣府をはじめとする関係省庁とも緊密に連携しながら、バーティカルA Iの導入・開発・利用を支えるA I基盤の整備や人材基盤の強化、研究開発・実証などの取組を着実に推進するよう、警察庁を指導してまいります。」といった発言があった。

- ・黄川田内閣府特命担当大臣から、「生成A Iは、こどもたちの学びや創造性を広げ、一人ひとりの可能性を伸ばす大きな力を有しております。一方で、その普及に伴い、誤情報・有害情報への接触や過度の依存、生成A Iを悪用した性的ディープフェイクによる被害など、インターネット上のリスクは多様化・複雑化しております。こども家庭庁では、生成A Iも含めたこどものインターネット利用環境の在り方について、有識者会議での議論や、G 7等の国際的な議論の動向も踏まえながら、具体的な方針について検討を進めているところです。今後とも、こども・若者が生成A Iの恩恵を安全・安心に享受できるよう、こども家庭庁が司令塔となり、関係府省庁とも連携しながら、技術の進展に応じた必要な対策と環境の整備に取り組んでまいります。」といった発言があった。

- ・金子内閣府大臣政務官から、「日本成長戦略における17の戦略分野の一つである「A I・半導体」は、我が国の成長力、競争力、そして経済安全保障を左右する重要な戦略分野であることから、国内民間投資を徹底的に強化し、自律性・不可欠性を起点とした成長及びイノベーションを通じた成長につなげてまいります。そのために、「責任ある積極財政」の下、政府が一步前に出て、事業者の「予見可能性」を高める大胆な措置を講じ、強力的に民間企業による投資を引き出してまいります。また、規制・制度改革については、先般、規制改革推進会議が決定した答申を踏まえた規制改革実施計画を速やかに閣議決定し、フィジカルA Iを活用した歩行型ロボットの推進などの個別の規制改革事項に加え、A Iをはじめ急速に進歩する新たな技術等の社会実装を迅速化させるため、規制・制度改革に向けた情報収集・分析の効率化、調査・実証の早期化、サンドボックス制度などの規制改革関連制度の積極活用、検討期限の事前設定などによる制度改正の迅速化など、A I時代に対応する規制・制度改革を推進してまいります。」といった発言があった。

- ・永井国土交通大臣政務官から、「国土交通省では、災害の激甚化・頻発化、社会資本の老朽化、生産年齢人口の減少などの課題に的確に対応するため、今般改定される人工知能基本計画に基づき、バーティカルＡＩ・フィジカルＡＩの社会実装、省内でのＡＩ活用を加速してまいります。建設分野では、建設現場での熟練技術の承継や施工自動化等による生産性向上を目指し、データ連携基盤やＡＩの開発・実装を推進してまいります。造船分野では、国際競争力の強化を目指し、溶接、塗装、曲げ加工等の造船の主要工程を自動化するＡＩ生産技術システム等の開発・導入を進めてまいります。物流・交通分野では、自動運転社会の早期実現に向け、ＡＩを活用した高度な自動運転技術を搭載した車両の本格的普及に向けた取組みを進めてまいります。国土交通省としては、これらの取組を通じＡＩの社会実装等を強力に推進してまいります。」といった発言があった。

- ・若林防衛大臣政務官から、「現在、ＡＩを活用した高度なデータ処理・分析を背景に、意思決定のスピード、そして戦闘全体のテンポ、いわゆるバトルリズムは、これまでとは異なる速さとなってきました。アメリカの太平洋軍司令官であるパパロ海軍大将も、「ＡＩを習得し、その能力を実際に活用したものが、２１世紀における優位性を得ることになる」と発言しており、ＡＩ抜きには今後の安全保障の確立は考えられない時代に入っています。防衛省・自衛隊においても、指揮統制や無人アセットなどの分野においてＡＩの活用を重点的に進め、意思決定の迅速化、自衛隊員の負担軽減や省人化・省力化を図り、防衛力の強化に取り組んでいるところです。こうした取組を効果的に進めるため、防衛産業やスタートアップ企業等との連携を強化し、防衛分野へのＡＩ導入・活用を進めるとともに、研究開発を通じて、ＡＩイノベーションの推進に貢献してまいります。」といった発言があった。

○ 高市内閣総理大臣より、以下のとおり発言があった。

- ・本日、第２期「ＡＩ基本計画」の案を決定しました。高性能ＡＩは、我が国の課題解決と国力強化に直結する一方、サイバー攻撃への悪用など、新たなリスクも懸念されています。日本は、この技術革新に向き合い、信頼できるＡＩで社会全体を駆動する「ＡＩトランスフォーメーション」、すなわち、ＡＸを進めなければなりません。
- ・高市内閣では、本基本計画において『日本ＡＸ』を掲げ、その柱として、バーティカルＡＩとフィジカルＡＩの官民投資を『「強く豊かな日本」投資枠』を活用して、強力に

推進します。

- ・「ＡＩロボティクスなど産業構造改革や国際競争力強化に資する領域」、「業務の効率化・負担軽減を通じ人手不足の解消に繋がる領域」、「防衛やサイバーなど戦略性ある領域」において、領域別に戦略を策定の上、官民での集中投資を実施し、将来的なフィジカルＡＩの開発・活用につながるバーティカルＡＩの開発・実装を強力に推進します。
- ・小野田大臣を中心に、関係省庁が連携し、『領域別戦略』の具体化を進めるとともに、人材育成、現場記録作成や意思決定支援へのＡＩ活用、ＡＩ・データ連携基盤の構築などの共通課題について、横展開も見据えた施策を推進してください。
- ・「フィジカルＡＩ」については、赤澤大臣が、関係府省庁と連携し社会実装を促進するための「国産の開発基盤」の構築、ＡＩロボットの研究開発・量産投資や導入支援、ＡＩロボティクスの世界的中核拠点の早期創設を進め、ロボットの社会実装を加速してください。
- ・あわせて、ＡＩを前提とした規制・制度や運用ルールの抜本的見直しを、府省庁横断で進めるとともに、リスクに対応した「信頼できるＡＩ」の実現に向けて、政府が高性能ＡＩを評価できるよう、『ＡＩ法』を含む関連制度の能動的な見直しや、「ＡＩＳＩ」の機能・体制強化を進めてまいります。
- ・また、「信頼できるＡＩ」の活用による「ＡＸ」は、世界と共に実現していくことが重要であることから、小野田大臣は、『ＡＩサミット』の早期日本開催に向け、関係国と速やかに調整を進めてください。
- ・こうしたＡＩに関する技術開発支援、国際連携や規制・制度見直しなど、「ＡＸ」を一体的かつ強力に推進するため、外部の技術人材も積極的に活用し、諸外国に比肩する政府の推進体制を構築します。
- ・高市内閣は、行政、産業、暮らしを創り変え、日本を強く、豊かにする『日本ＡＸ』を、「まずは行政から始める」こととし、「信頼できるＡＩ」により社会全体が駆動する具体像を示すべく、検討を加速してまいります。以上です。よろしくお願いします。

(議了)

(別紙)

出席者一覧

高市 早苗	内閣総理大臣
木原 稔	内閣官房長官
	沖縄基地負担軽減担当
	拉致問題担当
小野田 紀美	経済安全保障担当大臣
	外国人との秩序ある共生社会推進担当
	内閣府特命担当大臣（クールジャパン戦略 知的財産戦略 科学技術政 宇宙政策 人工知能戦略 経済安全保障）
林 芳正	総務大臣
平口 洋	法務大臣
茂木 敏充	外務大臣
松本 洋平	文部科学大臣
上野 賢一郎	厚生労働大臣
鈴木 憲和	農林水産大臣
赤澤 亮正	経済産業大臣
	原子力経済被害担当
	G X実行推進担当
	産業競争力担当
	中東情勢に伴う重要物資安定確保担当
	内閣府特命担当大臣（原子力損害賠償・廃炉等支援機構）
石原 宏高	環境大臣
	内閣府特命担当大臣（原子力防災）
松本 尚	デジタル大臣
	デジタル行財政改革担当
	行政改革担当
	国家公務員制度担当

	サイバー安全保障担当
	内閣府特命担当大臣（サイバー安全保障）
牧野 たかお	復興大臣
	福島原発事故再生総括担当
	防災庁設置準備担当
	国土強靱化担当
あかま 二郎	国家公安委員会委員長
	領土問題担当
	内閣府特命担当大臣（防災 海洋政策）
黄川田 仁志	内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策 消費者及び食品安全 こども 政策 少子化対策 若者活躍 男女共同参画 地方創生 アイヌ施策 共生・共助）
	女性活躍担当
	共生社会担当
	地域未来戦略担当
中谷 真一	財務副大臣
金子 容三	内閣府大臣政務官
永井 学	国土交通大臣政務官
若林 洋平	防衛大臣政務官
尾崎 正直	内閣官房副長官
佐藤 啓	内閣官房副長官
露木 康浩	内閣官房副長官
阪田 渉	内閣官房副長官補
河邊 賢裕	内閣官房副長官補
佐伯 耕三	内閣広報官
濱野 幸一	内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局長
福永 哲郎	内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局統括官